

大学図書館員 —役割の変化と育成—

2010年4月22日

早稲田大学図書館

加藤 哲夫



早稲田大学図書館・図書室

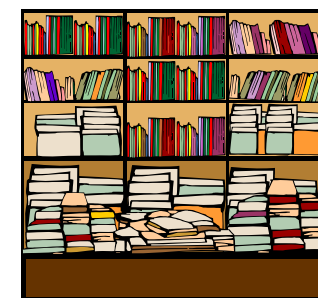
2,120,165人(年間入館者数)

56,973人(早稲田大学学生総数)

1,227,846,000円(2008年度総資料費)

1882年開設
(東京専門学校時代)

学内図書館施設総数
26 館

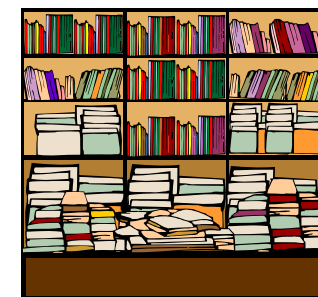


早稲田大学図書館・図書室

- ・中央図書館
- ・キャンパス図書館4館
(高田早苗研究図書館・戸山図書館・理工学図書館・所沢図書館)
- ・学生読書室7館
(政治経済・法・教育・商/国際教養・社会科学・理工・日本語教育研究)
- ・教員図書室5館
(政治経済・法文センター・教員・商・社会科学)
- ・その他9館
(演劇博物館図書室・現政研図書室など)

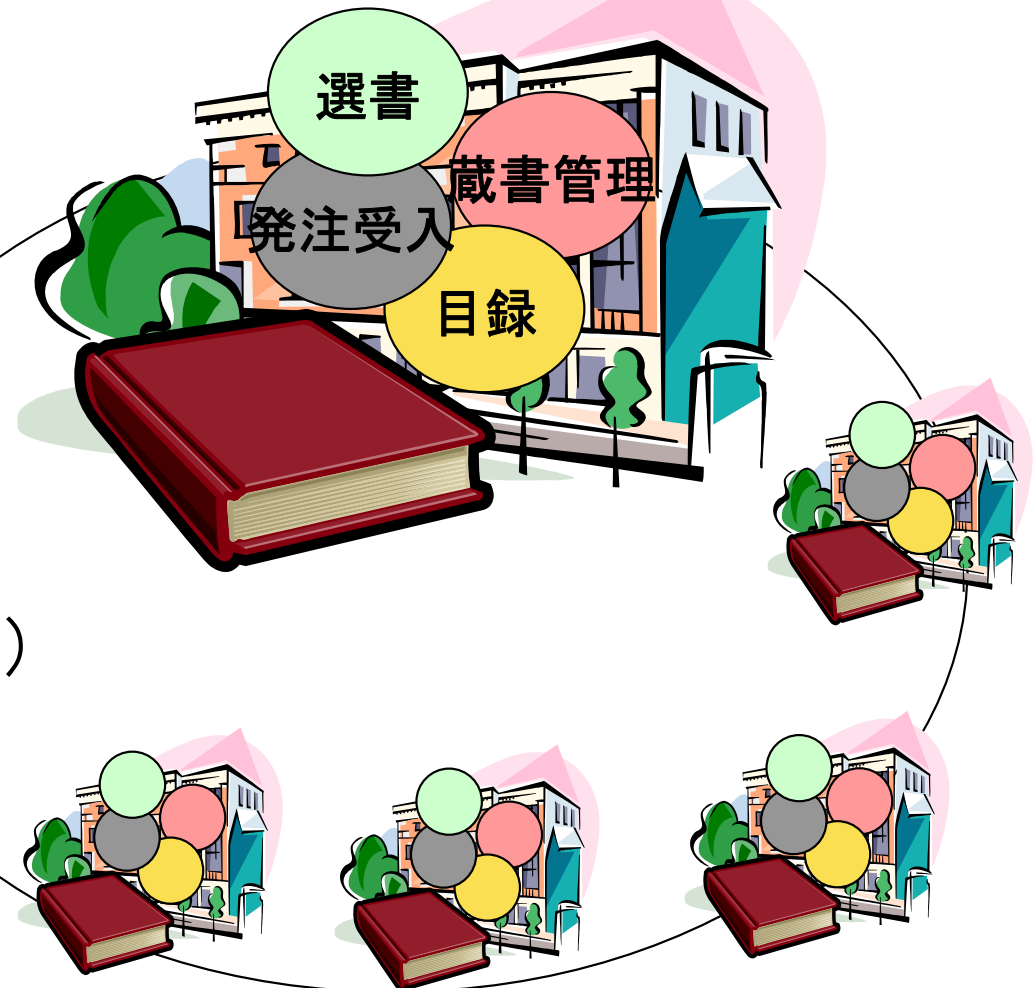
1882年開設
(東京専門学校時代)

内図書館施設総数
26 館



～ 1980年代の図書館組織

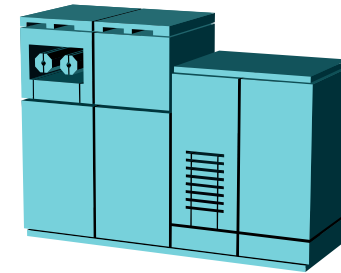
- 各図書館・図書室分散
 - 各図書館・室で**機能完結**
 - カード／冊子体目録
 - 手作業
- 図書館員が多数必要
 - 145人(1988年)
 - 正規職員(学生職員含む)のみ
- 各学部等に近い
 - きめ細かなサービス



80年代の早稲田大学図書館への要請

➤ 機械化

- カード目録: → データベース化
 - 個々の館の目録 → 共同目録
- 貸出・返却業務: 貸出票 → システム
- 目録検索端末



➤ 新中央図書館

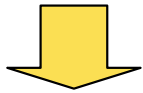
- オープン化
 - 閉架式 → 開架式
 - 書架整備(再配架)のため返却台設置
 - 返却台からの再配架のため非正規職員雇用



1990年代の図書館組織

➤ 各図書館・図書室分散

- カード／冊子体目録



共同目録

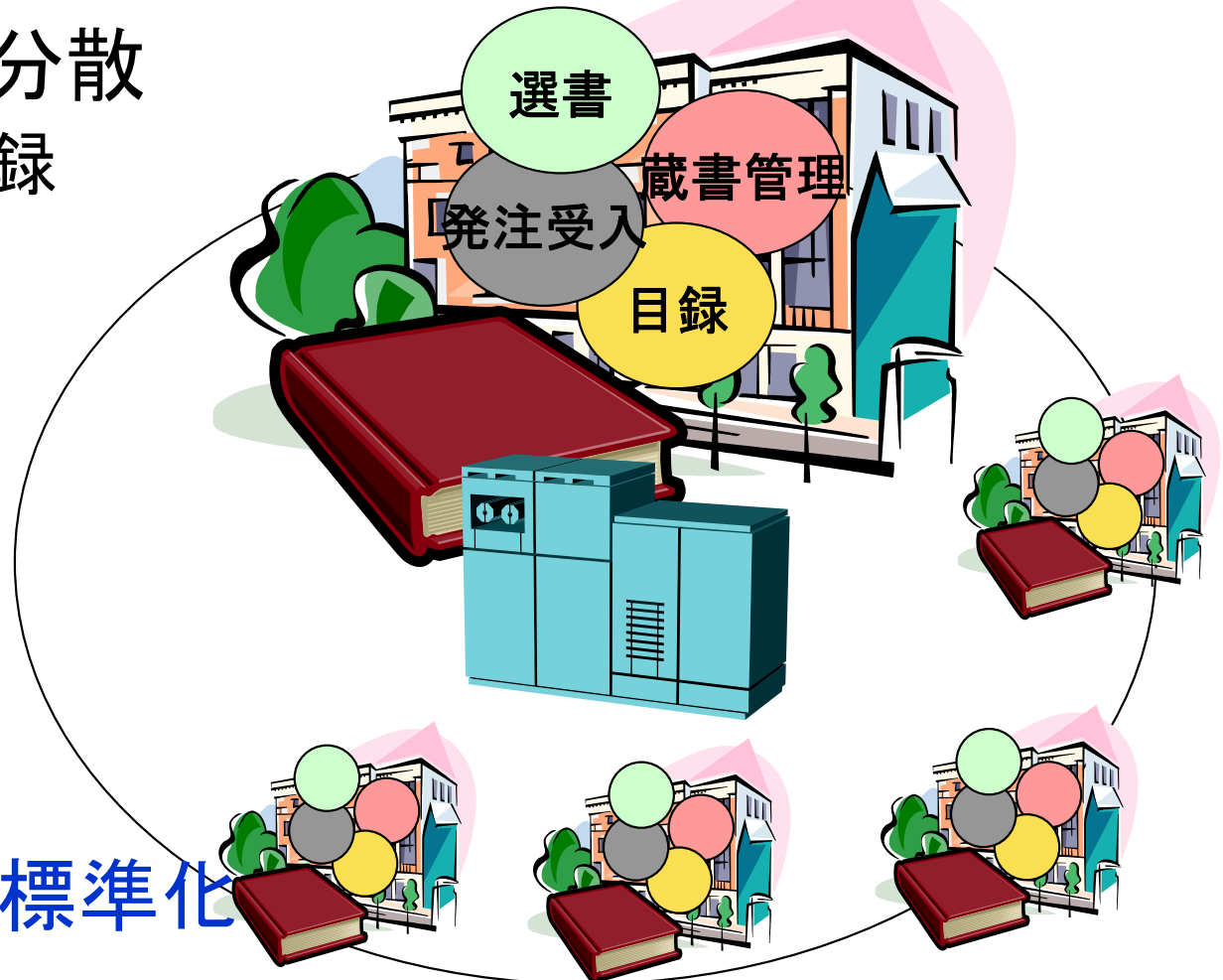
- 手作業



機械化

- 本質的に業務は変わっていない

➤ 機械化による業務標準化

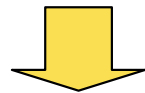


90年代の早稲田大学図書館への要請

➤ 情報化

– 図書館が学術情報を提供

- 出版情報、大学を含む外部研究機関の書誌・所蔵情報などが図書館員に集まる。
- それに基づき、資料を体系的に収集し利用者に提供



– 利用者が直接学術情報にアクセス(図書館員より詳しいかもしれない)

- Webの出現

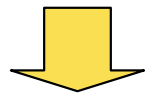
➤ 図書館のサービス時間の拡大



2000年代の図書館組織

➤ 図書館・図書室業務集中

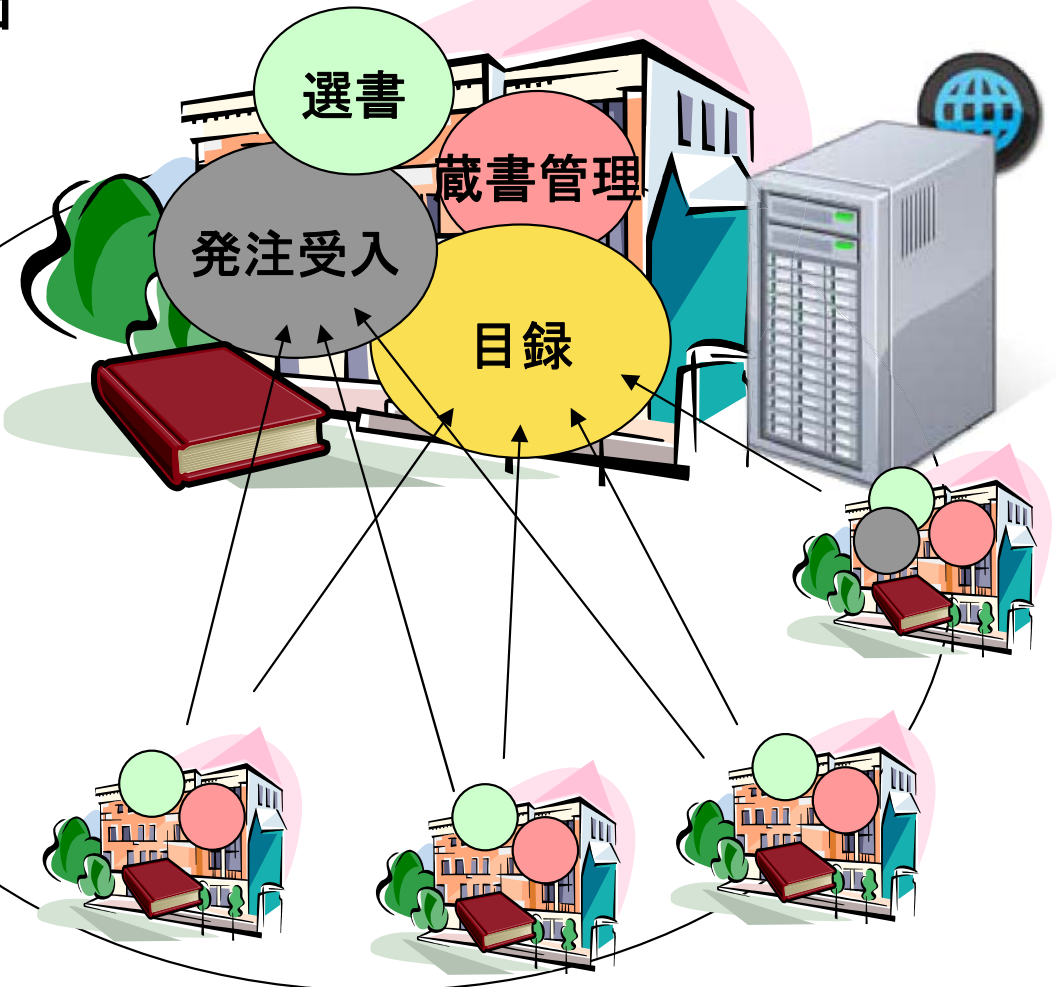
- 組織の統廃合
 - 発注・受入・目録業務を中央図書館に集中
- 大学図書館のミッションと職員の中核的業務分析



戦略的外部委託

➤ 電子図書館

- Web Link (館内資料に留まらない)



戦略的外部委託により拡充したサービス

➤ 開館時間

21:00→22:00 に拡充

➤ 開館日数

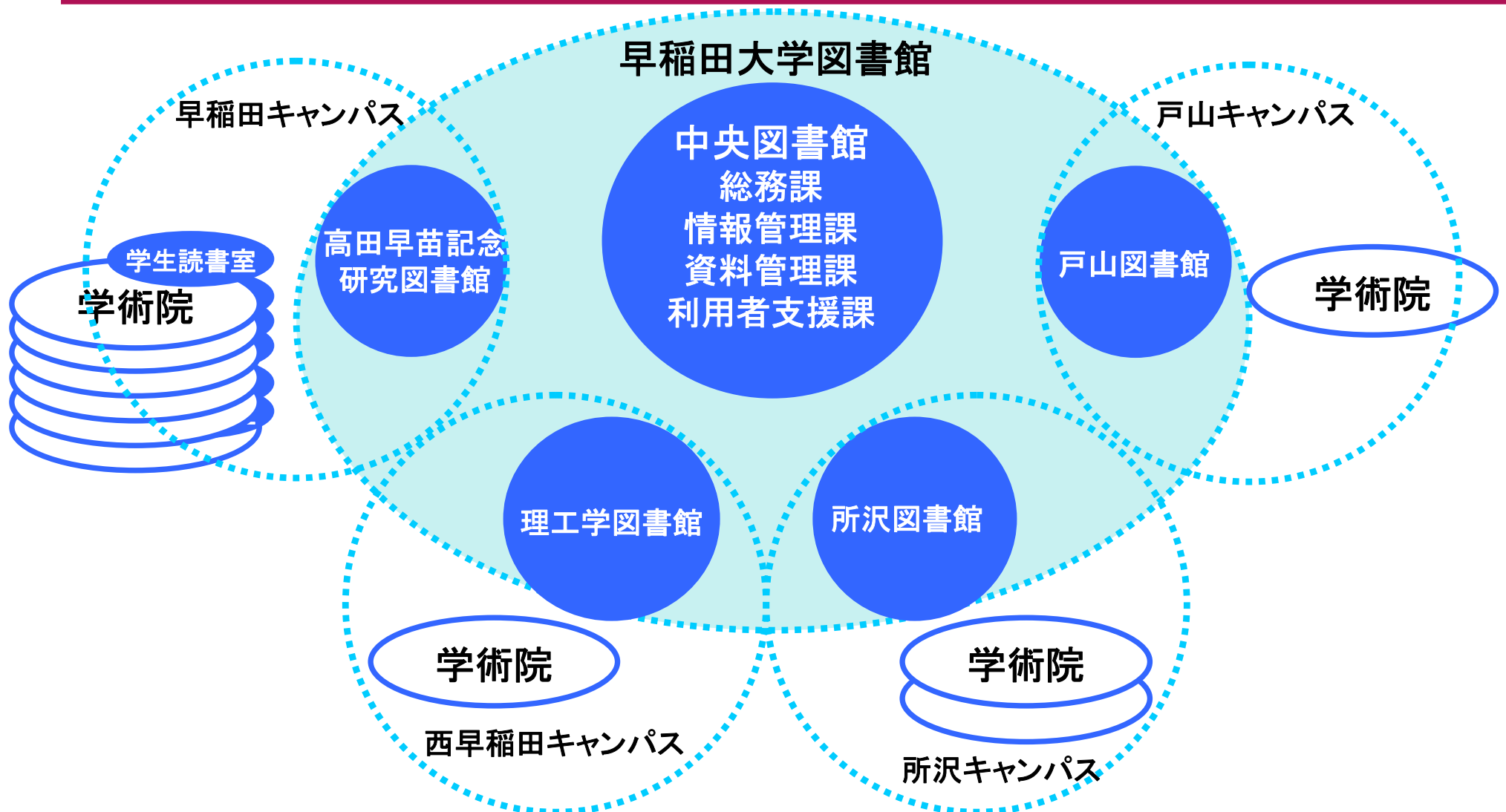
303日(2000年)→314日(2008年): 中央図書館

➤ 学生読書室の開館日・開館時間の拡充と統一

➤ どの図書館でも借りた資料の返却が可能

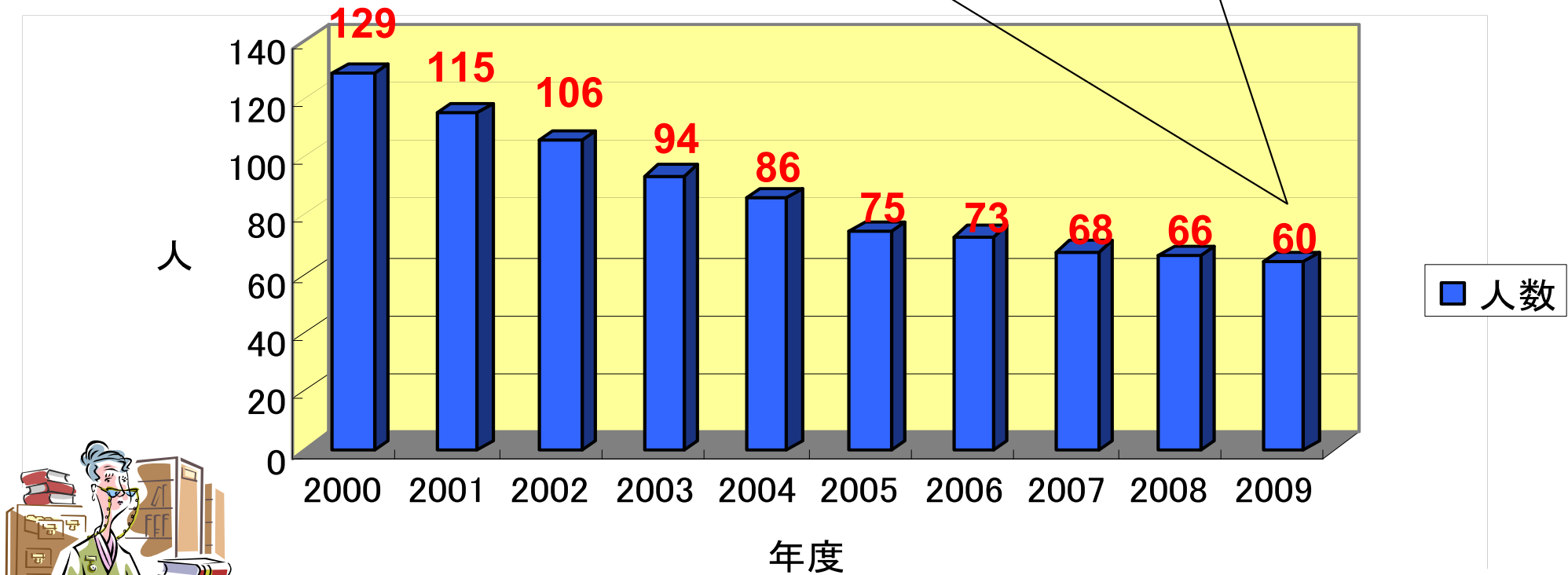


図書館組織図 (2010年度)



早稲田大学図書館専任職員数

20才代:3人、30才代:9人、40歳代:16人、50歳以上:32人



専任職員は図書館の専門的・中核的業務を担う



アメリカの図書館員

- 米国研究図書館協会(ARL)の専門職種の推移では、1985年から2005年の間に、伝統的な職種である目録担当者(cataloger)、利用サービス担当者及び整理担当者は、それぞれ30%、45%、47%減少した。
- 一方、レファレンス担当者や主題専門家(subject specialist)はそれぞれ42%、51%増加したが、なかでも最も顕著な増加を示したのが、職能専門家と呼ばれる職種である。
- この間に3倍以上に急増し、このまま増加すれば、ARL図書館においてレファレンス担当者を抜いて最大の職種になるだろうと予測されている。つまり、図書館が求める人材やスキルにも変化が生じているのである。

CA1583 - 図書館員の大量退職に潜む構造的変化/ 早瀬均 より



ARL職能専門家 (Functional Specialist) の内訳

Position	Main		Medical		Law		All	
	No.	Percent	No.	Percent	No.	Percent	No.	Percent
Archivist	459	22.00%	22	14.60%	6	10.50%	487	21.20%
Business Manager	132	6.30%	12	7.90%	2	3.50%	146	6.40%
Human Resources	104	5.00%	1	0.70%	0	0.00%	105	4.60%
IT-Programming	408	19.50%	32	21.20%	15	26.30%	455	19.80%
IT-Systems	143	6.90%	18	11.90%	7	12.30%	168	7.30%
IT-Web Development	269	12.90%	24	15.90%	0	0.00%	293	12.80%
Media/Multimedia	110	5.30%	6	4.00%	4	7.00%	120	5.20%
Preservation/Conservation	127	6.10%	1	0.70%	3	5.30%	131	5.70%
Other Functional Specialists	335	16.00%	35	23.10%	20	35.10%	390	17.00%
Total	2,087	151	57	2,295				

ARL Annual Salary Survey 2008–2009 より



大学図書館員の専門性とは

➤ 過去の専門性(専門職)議論

- 「図書館員 = 専門職」は誤解
- 図書館職員の専門性は、「蔵書構築への見識」、「蔵書内容の熟知」、「レファレンス技術の高さ」、「利用者からの信頼」などで計られるものであり、業務の中で高められて行くものである。
- 図書館職員は当初から専門職でなく、日々の業務や研修などを通じて専門性を高めて行くものであり、高い専門性を有する図書館職員の育成は短期的でなく、長期的な展望のもとでの持続的育成こそが必要であると考え。



図書館職員と早稲田大学職員

- 大学法人職員の要員政策
 - 法人職員の職務分析と適切な要員配置
- 司書職採用 1990年まで
- 事務系一般職で採用された職員が図書館へ
 - 大学職員人事異動
 - 図書館外から図書館へ
 - 図書館から図書館外へ
- 事務職から司書職へ職種変更
- 中途採用



育成をはかるべき中核的業務とは

➤ 伝統的課題

- 蔵書を知る
- 蔵書構築を知り、発展させる
- サブジェクト・ライブラリアン



➤ 今日の課題

- 学生・教員・研究者を知る
 - ・ 館内で待つ → 館外へ
- 学習支援
 - ・ 学部教育・大学院教育との連携
- 図書館資料を高度に組織し提供
 - ・ 次世代OPAC、クラウド...
- 国際性
 - ・ 留学生対応 (Global 30)



育成をはかるべき伝統的課題

- 蔵書を知る
- 蔵書構築を知り、発展させる



図書館員としての長期間にわたる育成が必要

- サブジェクト・ライブラリアン



早稲田の職員のキャリアパスでは雇用が困難か
欧米の図書館員の身分 ≒ 教員



育成をはかるべき今日的課題

- 学生・教員・研究者を知る
 - サービス対象者のニーズを理解し適切な情報に導く
 - リエゾン・ライブラリアン(専任図書館員の半数)
- 学習支援
 - 学習支援連携委員会
 - 教員と図書館員との協働
 - 学内他部門の職員と図書館員の協働
- 図書館資料を高度に組織し提供
 - 外部資源活用, IT部門との連携



法科大学院における(法律)図書館の役割

司法制度改革審議会「21世紀の日本を支える司法制度」
(2001年6月)～学生の能動的学習と文書作成能力の育成



「法律情報に関する基礎的教育」に関する科目設置～必修化



- 法令、判例及び学説等の検索、並びに判例の意義及び読み方の学習等、法学を学ぶ上で必要な法情報の調査・分析に関する技法を修得させる教育内容をもつ、法情報調査について指導が行われる



担当教員 ↔ (法律)図書館 ↔ (ロー)ライブラリアン

